

自己評価結果等報告書

令和 6 年 2 月 28 日

1 事業所情報

事業所の名称	みらくる		
事業所番号	465003405		
事業の種別	<input type="checkbox"/>	児童発達支援	<input checked="" type="checkbox"/> 放課後等デイサービス
所在地	鹿児島県薩摩郡さつま町宮之城屋地2056-1		

2 公表状況

公表日	令和	6 年	2 月	29 日
公表方法	<input checked="" type="checkbox"/>	ホームページ	(URL	http://hiiragikai.net/)
	<input type="checkbox"/>	会報等	()
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	()

3 自己評価事務担当者情報

担当者名	久保 秀和
連絡先 (TEL)	0996-53-3900

※公表している自己評価表を添付すること。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和6年 2月 29日

事業所名 放課後等デイサービス事業所 みらくる 保護者等数(児童数) 27名 回収数 23 割合 85%

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	20	2	0	0		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	17	3	0	2	適切な状態なのだと思うはありますが、実際様子を見る事が無い為、分からないとさせていただきます。	新しく利用されてる方や保護者会の際に施設の説明を詳しく行っていきます。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	18	0	0	4		
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	19	1	0	2		
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	15	3	0	3		
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	6	2	10		コロナも5類になり、今後交流の機会を増やせるように努めます。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	21	0	0	0		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	18	3	1	0	まとめて日誌を見せてくださるが、その日でないとか分からない、思い出せない点が多くあり、その日の様子はその日に伝えてほしい	本人さんの前では伝えにくい事もある為に、場所を配慮しながら日頃の様子を伝えていきます。
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	16	2	0	2		
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	12	3	2	5	仕事で保護者会に参加できていない	早めの声かけを行える様に努めます。個別での面談を実施できるようにします。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	16	3	0	3		
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	15	4	0	1		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	19	0	1	2		ホームページ・メール・会報等での周知等も行っているが、連絡体制を密にしていきたいと思いま
	14 個人情報に十分注意しているか	21	0	0	1		
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	19	1	0	2		
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	9	12	0	1		災害時等の安全の確保を行い、安全に利用して頂けるように努めます。
満足度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	18	2	0	2	その日によって行きたくないと言葉に出すことはありますが、行けば毎回楽しいようです。	
	18 事業所の支援に満足しているか	20	1	0	0		

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 2月 29日

事業所 放課後等デイサービス事業所 みらくる

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0		
	2	職員の配置数は適切である	6	0		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	1	出来る範囲で、バリアフリーの設備を整えている。	車椅子の方が更衣する時に、今はまだ体重が軽いので畳で更衣できるが、ベッドが必要になってくると思われる。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0	各個人の1か月の記録を振り返り、職員間で支援内容の検討と確認を行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	保護者会等で、改善や課題について説明を行っている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4		外部との交流等も行い、開かれた施設の運営が出来るように努めます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	0	年度の始めに人権擁護の研修を行い、強度行動障害、愛着障害等、研修参加している。	人権研修を始め、多くの研修に参加して支援の質を高められるように努めます。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0		細かいアセスメントで、状況把握をしっかりと行い家族と連携して支援が出来るように努めます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	職員間で話し合いを行い、活動について決定している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0	運動、遊び、学習等の活動を行い社会性を身に着けられるように支援している。	地域の活動なども利用しながら、活動を組んでいる。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	0	様々な経験をしていたけけるように、避難訓練や体験活動等も行っている。	外出など、施設外での活動も取り入れながら多くの体験が出来るように努めます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	特性に合わせて支援を行い、集団活動も無理なく参加できる支援を行っている。	集団活動が難しい場合が多いが、朝の会や帰りの会等で集まる機会や発表する機会をつくり、集団活動としている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	利用人数や活動内容等の確認を行っている。	出欠の確認や送迎の確認を確実に出来るようにしている。活動内容や児童の状態確認等も行い支援できるようにする。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	3	職員間で、課題等を話し合い共通理解できるようにしている。	毎日ではないが、子どもの状態やどうしたら良いかなど、職員間で話し合いを行っている。また、当日出来なかった時は、翌日話し合いをして共通理解できるようにする。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0	その日にあった出来事等を記録にとり、1ヶ月で振り返りを行っている。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	1		定期的なモニタリングを行い、状況把握をして適切な支援が出来るようにします。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	6	0			
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0			
21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	6	0			

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	5		現在は、医療的ケアが必要な児童は利用はないが、利用がある場合には医療機関と連携できる体制を整える。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6	0	相談支援専門員からの情報や担当者会議で共通理解できるようにしている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6	0	相談支援専門員からの情報や担当者会議で共通理解できるようにしている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2	他事業所など併用利用の方がいるために、引き継ぎはおこなっている。	専門機関等への相談を行う事で、一人一人の特性に応じた支援が出来るように努めます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	6		コロナも5類になり、同年代から地域の方々との交流が出来るように努めます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	0	子供部会・幼保教連絡会に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	気づいた事は、保護者と共有し、子供たちの成長を確認している。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	4	保護者から困っている事等のお話があった時に対応できるようにしている。	
	保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	利用開始前に、細かく説明が出来るようにしている。
31		保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	相談があった場合には、支援方法など伝えたりしている。	
32		父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	6	0	ウインタースクールに参加して、交流をさせてもらった。	児童や家族といっよに活動できる機会を増やせるように努めます。
33		子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0		
34		定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	2カ月に1回、お便りを発行している。	
35		個人情報に十分注意している	6	0		
36		障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	お仕事等で情報伝達が難しい方もいらっしゃるため、LINEを取り入れた。	家族との信頼関係を築き、安心して利用して頂けるように努めます。
37		事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	4		地域の方々にも、みらくるの活動を理解してもらえるよう努めます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	0	玄関に掲示して、閲覧できるようにしている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	避難訓練や不審者対応訓練を行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	0	人権擁護の研修を年度の初めに行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	0	利用開始前に、重要事項説明の際に話を行っている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	4		該当者はいませんが、聞き取りを確実に実行し対応できるようにします。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	報告書等の作成を行い、共有できるようにしてい	